

1

問題のページへ

$$(1) \quad A^2 = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 & 3 & 3 \\ 3 & 3 & 3 \\ 3 & 3 & 3 \end{pmatrix} = 3A \text{ となり,}$$

$$A^3 = A^2 A = 3A \cdot A = 3A^2 = 9A = \begin{pmatrix} 9 & 9 & 9 \\ 9 & 9 & 9 \\ 9 & 9 & 9 \end{pmatrix}$$

(2) A と E は積について交換可能なので,

$$(xA - E)^3 = x^3 A^3 - 3x^2 A^2 + 3xA - E = 9x^3 A - 9x^2 A + 3xA - E$$

条件より, $(xA - E)^3 = xA - E$ なので, $9x^3 A - 9x^2 A + 3xA - E = xA - E$

$$(9x^3 - 9x^2 + 2x)A = O$$

 $A \neq O$ から, $9x^3 - 9x^2 + 2x = 0$, $x(3x-2)(3x-1) = 0$

$$x > 0 \text{ より, } x = \frac{1}{3}, \frac{2}{3}$$

(3) $x_0 = \frac{1}{3}$ なので, (2) から, $(\frac{1}{3}A - E)^3 = \frac{1}{3}A - E$ となり, また,

$$\left(\frac{1}{3}A - E\right)^2 = \frac{1}{9}A^2 - \frac{2}{3}A + E = \frac{1}{3}A - \frac{2}{3}A + E = -\frac{1}{3}A + E$$

これより, $(x_0 A - E)^n = p_n A + q_n E$ とおくと, $p_n = -\frac{(-1)^n}{3}$, $q_n = (-1)^n$ と推

測できる。以下, この推測の正しいことを数学的帰納法で証明する。

(i) $n=1$ のとき $p_1 = \frac{1}{3}$, $q_1 = -1$ となり成立する。(ii) $n=k$ のとき $\left(\frac{1}{3}A - E\right)^k = -\frac{(-1)^k}{3}A + (-1)^k E$ と仮定する。

$$\begin{aligned} \left(\frac{1}{3}A - E\right)^{k+1} &= (-1)^k \left(-\frac{1}{3}A + E\right) \left(\frac{1}{3}A - E\right) = (-1)^{k+1} \left(\frac{1}{3}A - E\right)^2 \\ &= (-1)^{k+1} \left(-\frac{1}{3}A + E\right) = -\frac{(-1)^{k+1}}{3}A + (-1)^{k+1}E \end{aligned}$$

(i)(ii)より, $n \geq 1$ において, $p_n = -\frac{(-1)^n}{3}$, $q_n = (-1)^n$ である。

[解 説]

(3)では, $\left(\frac{1}{3}A - E\right)^2$ を把握するだけで, (2)から結論を導くことができます。この考え方を用い, n を偶奇に分けて記しましたが, 漸化式を立てるという手もあります。

2

問題のページへ

$$(1) \quad a_{n+2} = a_{n+1} + 2a_n, \quad b_n = a_{n+1} + a_n \text{ より,}$$

$$b_{n+1} = a_{n+2} + a_{n+1} = a_{n+1} + 2a_n + a_{n+1} = 2(a_{n+1} + a_n) = 2b_n$$

よって、数列 $\{b_n\}$ は公比 2 の等比数列である。

$$(2) \quad b_1 = a_2 + a_1 = 3 \text{ より, (1) から, } b_n = 3 \cdot 2^{n-1} \text{ となり,}$$

$$\sum_{k=1}^{n-1} (-1)^{k-1} b_k = 3 \sum_{k=1}^{n-1} (-2)^{k-1} = 3 \cdot \frac{1 - (-2)^{n-1}}{1 - (-2)} = 1 - (-2)^{n-1}$$

$$(3) \quad n \geq 2 \text{ で, } \sum_{k=1}^{n-1} (-1)^{k-1} b_k = \sum_{k=1}^{n-1} (-1)^{k-1} (a_{k+1} + a_k) = \sum_{k=1}^{n-1} \{(-1)^{k+1} a_{k+1} - (-1)^k a_k\}$$

$$= (-1)^n a_n - (-1)^1 a_1 = (-1)^n a_n + 2$$

$$(2) \text{ の結果と合わせて, } (-1)^n a_n + 2 = 1 - (-2)^{n-1}$$

$$a_n = \frac{-(-2)^{n-1} - 1}{(-1)^n} = 2^{n-1} + (-1)^{n-1}$$

$n=1$ をあてはめると, $a_1 = 2^0 + (-1)^0 = 2$ となり, このときも満たしている。

$$(4) \quad \frac{a_n}{a_{n+1}} = \frac{2^{n-1} + (-1)^{n-1}}{2^n + (-1)^n} = \frac{1 + \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-1}}{2 - \left(-\frac{1}{2}\right)^n} \text{ であり, } \lim_{n \rightarrow \infty} \left(-\frac{1}{2}\right)^n = 0 \text{ なので,}$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n}{a_{n+1}} = \frac{1}{2}$$

[解 説]

(3)では、無理をして、(2)を誘導として位置付けて解きましたが、パターンの的に解いた方が簡明なのは言うまでもありません。

3

問題のページへ

- (1) まず、一般性を失うことなく、 $OA = OC = 1$ とすることができる。

ここで、 P から OA に下ろした垂線の足を H とすると、 $OH : HA = CP : PA = 2 : 1$ から、

$$OP = \sqrt{OH^2 + PH^2} = \sqrt{\left(\frac{2}{3}\right)^2 + \left(\frac{1}{3}\right)^2} = \frac{\sqrt{5}}{3}$$

$$\text{これより、} \cos \alpha = \frac{OH}{OP} = \frac{2/3}{\sqrt{5}/3} = \frac{2}{\sqrt{5}}$$

$$\cos \beta = \cos\left(\frac{\pi}{2} - 2\alpha\right) = \sin 2\alpha = 2 \sin \alpha \cos \alpha = 2 \sqrt{1 - \left(\frac{2}{\sqrt{5}}\right)^2} \cdot \frac{2}{\sqrt{5}} = \frac{4}{5}$$

- (2) まず、 $4 > \sqrt{15}$ より $\frac{2}{\sqrt{5}} > \frac{\sqrt{3}}{2}$, $5\sqrt{3} > 8$ より $\frac{\sqrt{3}}{2} > \frac{4}{5}$ となるので、

$$\frac{2}{\sqrt{5}} > \frac{\sqrt{3}}{2} > \frac{4}{5}, \quad \cos \alpha > \cos \frac{\pi}{6} > \cos \beta$$

$f(x) = \cos x$ は $0 < x < \frac{\pi}{2}$ で単調減少するので、 $\alpha < \frac{\pi}{6} < \beta$ となる。

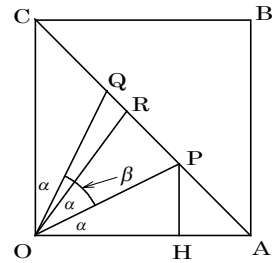
- (3) (1)から $\sin 2\alpha = \frac{4}{5}$ なので、 $\cos 2\alpha = \sqrt{1 - \left(\frac{4}{5}\right)^2} = \frac{3}{5}$

さて、 $\angle ORA = \pi - \left(\frac{\pi}{4} + 2\alpha\right) = \frac{3}{4}\pi - 2\alpha$ から、 OAR に正弦定理を適用すると、

$$\frac{AR}{\sin 2\alpha} = \frac{1}{\sin\left(\frac{3}{4}\pi - 2\alpha\right)}, \quad AR = \frac{\sin 2\alpha}{\sin \frac{3}{4}\pi \cos 2\alpha - \cos \frac{3}{4}\pi \sin 2\alpha}$$

$$\text{よって、} AR = \frac{4}{5} \cdot \frac{1}{\frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{3}{5} + \frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{4}{5}} = \frac{8}{7\sqrt{2}} = \frac{4}{7}\sqrt{2}$$

これより、 $RC = \sqrt{2} - \frac{4}{7}\sqrt{2} = \frac{3}{7}\sqrt{2}$ となり、 $AR : RC = 4 : 3$ である。



[解 説]

ベクトルを利用した設定で、文系に類題が出ていますが、理系ではこの誘導はありません。しかし、そのために逆に発想が制約されず、本問の方が魅力ある問題となっています。

4

問題のページへ

- (1) n 個の玉が入っている袋から、2 個同時に取り出す ${}_nC_2$ 通りが同様に確からしいとすると、 $r_1 < r_2$, $w_1 < w_2$ としても一般性を失わない。

さて、 A の面積が 4 であるのは、 $(r_2 - r_1, w_2 - w_1) = (1, 4), (2, 2), (4, 1)$

- (i) $(r_2 - r_1, w_2 - w_1) = (1, 4)$ のとき

$$r_2 = r_1 + 1, w_2 = w_1 + 4 \text{ より, } 1 \leq r_1 \leq n-1, 1 \leq w_1 \leq n-4 \text{ となり, その確率は,}$$

$$\frac{(n-1)(n-4)}{{}_nC_2 \cdot {}_nC_2} = \frac{4(n-1)(n-4)}{n^2(n-1)^2}$$

- (ii) $(r_2 - r_1, w_2 - w_1) = (2, 2)$ のとき

$$r_2 = r_1 + 2, w_2 = w_1 + 2 \text{ より, } 1 \leq r_1 \leq n-2, 1 \leq w_1 \leq n-2 \text{ となり, その確率は,}$$

$$\frac{(n-2)(n-2)}{{}_nC_2 \cdot {}_nC_2} = \frac{4(n-2)^2}{n^2(n-1)^2}$$

- (iii) $(r_2 - r_1, w_2 - w_1) = (4, 1)$ のとき

(i)と同様にして、その確率は、 $\frac{4(n-1)(n-4)}{n^2(n-1)^2}$ である。

$$(i)(ii)(iii) \text{ より, } \frac{4(n-1)(n-4)}{n^2(n-1)^2} + \frac{4(n-2)^2}{n^2(n-1)^2} + \frac{4(n-1)(n-4)}{n^2(n-1)^2} = \frac{4(3n^2 - 14n + 12)}{n^2(n-1)^2}$$

- (2) $X = |r_1 - r_2| = r_2 - r_1$ とおくと、 $X = k$ ($1 \leq k \leq n-1$) となる確率は、(1)と同様に、 $1 \leq r_1 \leq n-k$ から、 $\frac{n-k}{{}_nC_2} = \frac{2(n-k)}{n(n-1)}$ となる。これより、 X の期待値 $E(X)$ は、

$$E(X) = \sum_{k=1}^{n-1} k \cdot \frac{2(n-k)}{n(n-1)} = \frac{2}{n(n-1)} \sum_{k=1}^{n-1} (nk - k^2)$$

$$= \frac{2}{n(n-1)} \left\{ \frac{1}{2} n^2(n-1) - \frac{1}{6} (n-1)n(2n-1) \right\} = \frac{1}{3}n + \frac{1}{3}$$

- (3) $n=7$ のとき、(2)より、 $E(X) = \frac{7}{3} + \frac{1}{3} = \frac{8}{3}$

同様に、 $Y = |w_1 - w_2|$ とおくと、 $E(Y) = \frac{7}{3} + \frac{1}{3} = \frac{8}{3}$ である。

ここで、 X と Y は独立なので、 A の面積の期待値 $E(XY)$ は、

$$E(XY) = E(X)E(Y) = \frac{8}{3} \times \frac{8}{3} = \frac{64}{9}$$

[解 説]

(3)は、範囲外の数 C 「確率分布」に出てくる公式を用いましたが、これが普通の解法でしょう。

5

問題のページへ

(1) $f(x) = x + \frac{x}{x^2 - 1}$ に対して、 $f(-x) = -f(x)$ より、 $y = f(x)$ のグラフは原点对称となる。

$$f'(x) = 1 + \frac{(x^2 - 1) - x \cdot 2x}{(x^2 - 1)^2} = \frac{(x^2 - 1)^2 - (x^2 + 1)}{(x^2 - 1)^2} = \frac{x^2(x^2 - 3)}{(x^2 - 1)^2}$$

よって、 $x > 0$ における $f(x)$ の増減は右表のようになる。

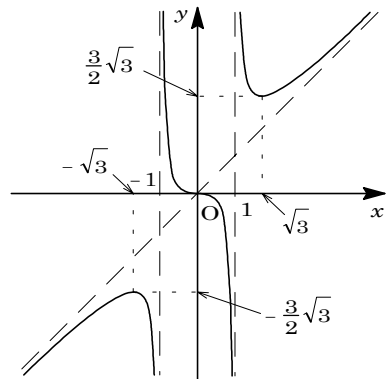
x	0	...	1	...	$\sqrt{3}$...
$f'(x)$	0	-	×	-	0	+
$f(x)$	0	↘	×	↘	$\frac{3}{2}\sqrt{3}$	↗

また、 $\lim_{x \rightarrow 1-0} f(x) = -\infty$ 、 $\lim_{x \rightarrow 1+0} f(x) = \infty$ 、

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \{f(x) - x\} = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x}{x^2 - 1} = 0 \text{ より、漸近}$$

線 $x = 1$ 、 $y = x$ が存在する。

以上より、 $y = f(x)$ のグラフは右図のようになる。



(2) $y = f(x)$ のグラフと直線 $y = mx$ の交点が 3 個になるのは、対称性から、 $x > 0$ において交点が 1 個となる場合より、

$$m < 0, 1 < m$$

(3) $y = f(x)$ のグラフと直線 $y = mx$ の $x > 0$ における交点は、

$$x + \frac{x}{x^2 - 1} = mx, 1 + \frac{1}{x^2 - 1} = m, x^2 = m(x^2 - 1)$$

よって、 $x = \sqrt{\frac{-m}{1-m}}$ となり、これを $x = \alpha$ とおくと、求める部分の面積 S は、

$$S = 2 \int_0^\alpha \left(x + \frac{x}{x^2 - 1} - mx \right) dx = 2 \left[(1-m) \frac{x^2}{2} + \frac{1}{2} \log |x^2 - 1| \right]_0^\alpha$$

$$= (1-m)\alpha^2 + \log |\alpha^2 - 1| = -m - \log(1-m)$$

[解説]

(2)では、 $x \neq 0$ で定数 m を分離して考えた方がクリアーですが、次の(3)の設問から判断すると、それには及ばないでしょう。